



CORPORATE
PROFILE

株式会社 七宝 (しっぽう)

本社 香川県三豊市豊中町岡本2412番地2
設立 1972年7月1日

香川県と北海道で、タマネギの品種改良ならびに種子の販売、およびこれに付帯する事業を行っている。タマネギの種子を農家に生産してもらい、その委託採取した種子を、農協系統を通じ北海道及び全国40府県のタマネギ主要産地に供給している。

岩田 豊志

PROFILE

- いわた とよし
株式会社 七宝
代表取締役社長
- 1975年 香川大学農学部
園芸学科卒業
- 1975年 株式会社七宝入社
- 1998年 代表取締役社長就任
- 2004年 ●民間部門農林水産
研究開発功績者表彰
●農林水産大臣賞受賞
●園芸研究功労賞受賞



大平正芳元首相が会社のために筆を執ってくださった「信為万事之本」。「信」の大切さを伝えています。

タ マネギの品種改良とタネの販売を手がけている株式会社七宝の社長・岩田豊志さん。父である初代社長の跡を継ぎ、日本におけるタマネギのタネのシェア70%以上を占めるトップ企業へと成長させました。

七宝がシェアを伸ばすきっかけとなったのが新品種の開発です。岩田社長が香川大学を卒業し、先代社長の仕事を手伝い始めた当時、北海道のタマネギは乾腐病に弱いという特徴がありました。「農家のためになんとかしたい」と決意した岩田社長は、この分野の第一人者であるアメリカのウイスコンシン大学のガールマン教授の研究を元に、品種改良に取り組みました。その熱意が実を結び、異なる系統の品種を交配させて、病気に強く、貯蔵性に優れたタマネギ

の開発に成功したのです。この新品種により、農家は病気対策の手間が省け、美味しいタマネギ作りに集中できるようになりました。

タマネギは日照時間や気温の影響を受けやすい植物で、土地に適合していないタネでは、玉が小さくなるなどのデメリットが生じる場合があります。七宝では、北海道においては北海道用のタネを、四国においては四国用のタネを開発して販売しています。タマネギの名産地として知られる淡路島でも、多くの農家で七宝のタネが使われています。こうした技術力は海外からも注目されていますが、今のところ岩田社長は、海外にタネを販売する気はありません。海外にタネを流出させると、日本の農家が価格競争に巻き込まれ、農業の荒

廃につながるおそれがあるからです。「まずは日本の農家と消費者のことが第一」という姿勢が、七宝の評価をさらに高めています。

このように、広い視野で観察し、必要とあれば海外にも飛んでいく岩田社長。その気質は大学生時代に培われたものです。農学部在学中、「興味のある研究や気になる先生がいれば、自分から積極的に話を聞きにいきましたね」と、当時のことを振り返る岩田社長。「勉強ができるタイプではなかった」と謙遜しますが、知りたいことには真っ直ぐな情熱をぶつけました。多くの先生との交流が生まれ、多角的な視点と考え方を身につけたのです。

「大学の先生は、やる気のある学生を一人の人間として対等に扱ってくれる。

そこが高校との大きな違いではないでしょうか。自分から学ぶ姿勢があれば、大学は楽しい場所です」

その岩田社長が一番大切にしていることは信用。しかも、仕事だけでなく、家庭での信用も大切にしているそうです。「大きな信用は小さな信用の積み重ね。タマネギも小さなタネを信用してもらって栽培してもらおう。信用は意識して失わないようにしないといけない」と、その理由を語ります。農家から信用される岩田社長の誠実な経営が、日本のタマネギ産業を根っこから支えています。

小さな信用を裏切らない

